



しのめYMCAこども園 園だより

2022年度2月号

発行者こども園園長 堀江和広

聖句 「互いに愛し合いなさい」

わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。

これがわたしの掟である。

2月 ここに愛があります。

ヨハネの手紙Ⅰ 4章10節

3年ぶりに「お餅つき」を行いました。コロナ禍前は、中庭に園児達が集まり、おひさま会や搗き手のお父さん、更に近隣の相撲部屋から、お相撲さん2~3名が応援に駆け付け、賑やかに餅つきを行っていました。搗いたお餅をおひさま会の皆さんが小さく丸め、その場で美味しく頂きました。またお相撲さんを相手に、園児やお父さん達の相撲大会も楽しみのひとつでした。

コロナ禍になり、今年には以前のような餅つきではありませんでしたが、園児達にとって杵を持ち、お餅を搗く体験はとても貴重で楽しい時間であったと思います。臼を囲み、応援する掛け声が、園庭に響きわたりました。

また今回のお餅つきでは、ただ搗くだけでなく、もち米がどんなふうにお餅になっていくのかお話や実演を行いながら進めました。実物の白米ともち米を見せて、大きさや形の比較をしたり、ボイラーで蒸かされたおこわ状態でのち米を、ほんの少し摘まんで、味見や匂いを嗅いだりしました。

園児達にとって、搗く体験は勿論の事ですが、お餅に成るまでのお話や実演は、とても貴重で新しい発見になったと感じています。今回搗いたお餅を食べる事はできませんでしたが、先生達はこれから皆で搗いたお餅を用いて、楽しい計画をしています。その日を楽しみに待っていてください。

スピードと利便性が求められる社会の中で、この「お餅つき」は、その軸や考え方とは大きく異なります。収穫感謝礼拝でお話したように、全て神様から命が与えられ、その恵みとして、私達の前にお米が与えられました。昔もこの恵みに感謝し、多くの人が集まり、収穫を喜びながら、お餅つきをしたのだろうと想像します。来年こそは、保護者の皆さんやお相撲さんも集まり、掛け声を掛け合い、笑顔でお餅つきができる事を願っています。

園長 堀江和広

